■今月のメッセージ（2012 年 6 月）

日本銀行富山事務所長
佐子　裕厚

私の父は 73 歳まで働きました。

富山県でも少子高齢化が進んでいます。老年人口の割合は 26.2%と全国第 15 位（全国平均 23.0%）[1]、合計特殊出生率は 1.42 と全国第 33 位（全国平均 1.39）となっています。今後、全国平均を上回るペースで老年人口が増えると推計されています。

老年人口が増えるということは、現在の雇用環境や制度を前提とすれば、働き手の数が減るということですから、財やサービスを新たに作り出す力が弱まります。これは経済成長にはマイナスです。

働き手の数を増やしていく努力が必要となる訳ですが、一つの処方箋は、老年者の就業率を高めていくことにあります。

富山県の現状をみますと、老年者の就業率はほぼ全国平均並みの 22.0%（第 22 位）となっています。これは、勤勉な当県の気風を考えた場合、やや違和感のある結果です。

老年者の就業機会が多い第一次産業の比率が低いこと（全国第 34 位）が原因の一つと思われますが、それだけでは説明しきれません。

ちなみに、老年者の社会への参加意欲は決して低くありません。例えば、老人クラブへの加入率は全国第 1 位ですし、60 歳以上の人口に占めるシルバー人材センター会員数の割合も全国第 11 位という結果です。

貯蓄額をみますと、老年者の貯蓄額は高く（世帯主が 65 歳～69 歳の二人以上の世帯の平均貯蓄額は 2,492 万円で全国第 7 位です）、生活にゆとりのある方が多いように思われます。

当県では、「若いうちにしっかり働いて、老後は、社会との接点を持ち続けながらも、仕事はリタイアして、ゆとりをもって生活する」という方が多いのではないでしょうか。

ただ、今後は、老年になっても働き続ける必要性が高まってくると思います。ちなみに、私の父は 73 歳まで働いていました。私も（まだ 52 歳ですが）、まだまだ頑張ります。

以　上

---

[1] 今回記載したデータは、世帯主の年齢別平均貯蓄額を除き、「100 の指標　統計からみた富山（平成 23 年度版）」（富山県編集）からの引用です。世帯主の年齢別平均貯蓄額は「平成 21 年全国消費実態調査」（総務省）によります。